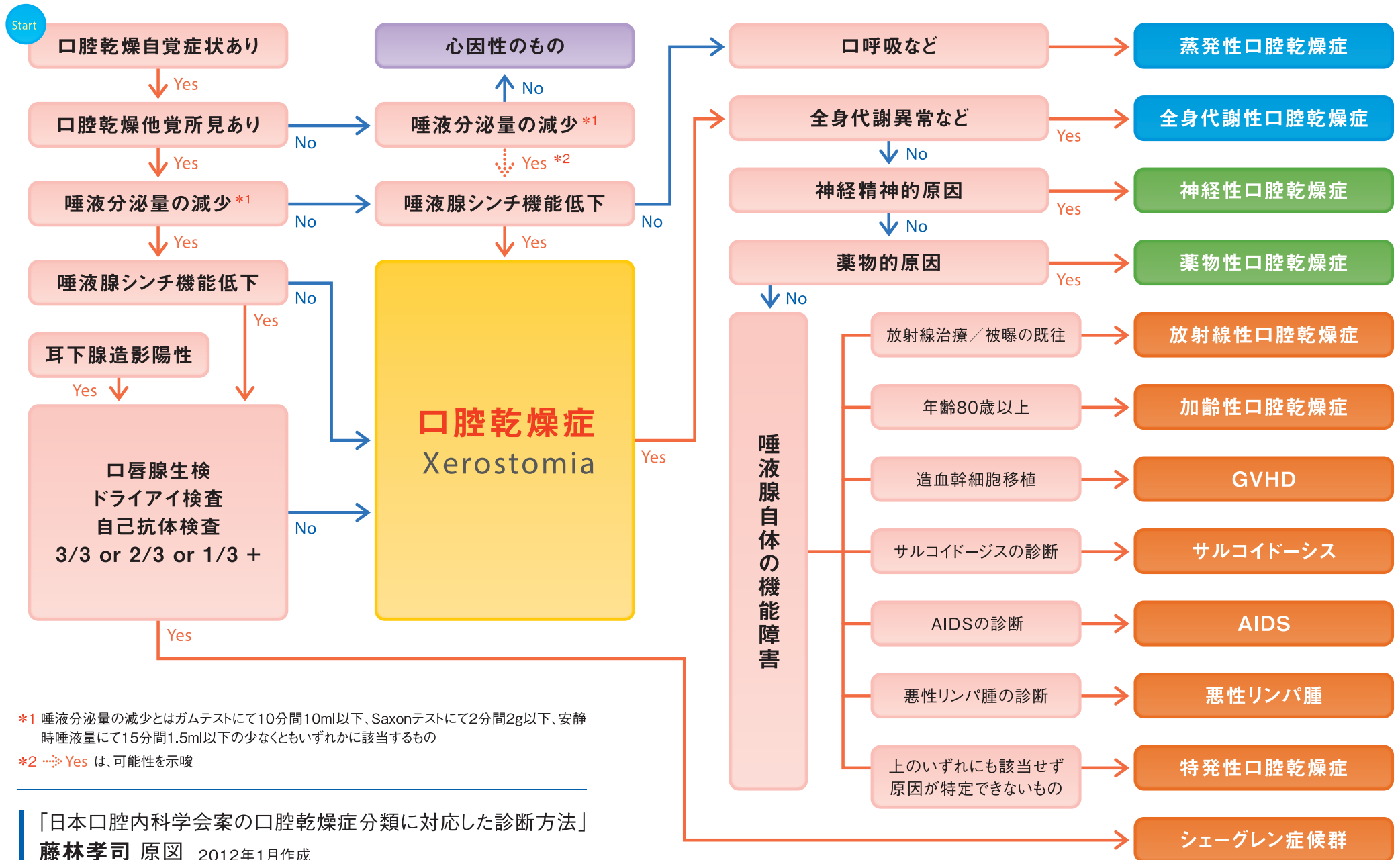


# 口腔乾燥症の診断フローチャート



\*1 唾液分泌量の減少とはガムテストにて10分間10ml以下、Saxonテストにて2分間2g以下、安静時唾液量にて15分間1.5ml以下の少なくともいずれかに該当するもの

\*2 可能性を示唆

「日本口腔内科学会案の口腔乾燥症分類に対応した診断方法」

藤林孝司 原図 2012年1月作成

# 口腔乾燥症（ドライマウス）の分類

## Classification of xerostomia (dry mouth)

### —— 日本口腔内科学会案の要約 ——

#### 1. 唾液腺自体の機能障害によるもの

- ① シェーグレン症候群**  
1999年改訂の本邦の診断基準を満たすもの
- ② 放射線性口腔乾燥症\***  
放射線治療あるいは被曝の既往がある
- ③ 加齢性口腔乾燥症\***  
年齢が80歳以上
- ④ 移植片対宿主病 (GVHD)\***  
血液幹細胞あるいは臓器移植後のGVHDと診断されたもの
- ⑤ サルコイドーシス\***  
サルコイドーシスと診断されたもの
- ⑥ 後天性免疫不全症候群 (AIDS)\***  
AIDSと診断されたもの
- ⑦ 悪性リンパ腫\***  
悪性リンパ腫と診断されたもの
- ⑧ 特発性口腔乾燥症\***  
上記のいずれにも該当せず、原因が特定できなかったもの

#### 2. 神経性あるいは薬物性のもの

- ① 神経性口腔乾燥症\***  
恐怖、興奮、ストレス、抑うつなどの精神状態、脳炎、脳腫瘍、脳外傷などの中枢性病変、顔面神経上唾液核や顔面神経分泌枝の障害などの唾液分泌の神経系の障害などがある
- ② 薬物性口腔乾燥症\***  
向精神薬、抗不安薬、抗うつ薬、抗コリン鎮痙薬、制吐薬、抗ヒスタミン薬、降圧薬、利尿薬などを服用している

#### 3. 全身性疾患あるいは代謝性のもの

- ① 全身代謝性口腔乾燥症\***  
熱性疾患、発汗過多、脱水症、下痢、尿崩症、糖尿病、甲状腺機能亢進症、心不全、腎機能不全、貧血、過度のアルコール飲用、過度の喫煙などがある
- ② 蒸発性口腔乾燥症**
  - ・ 口呼吸（副鼻腔炎や習慣性など）、過呼吸、開口、摂食嚥下障害などを有し、口腔の環境変化による水分蒸発といった局所的代謝異常がある
  - ・ 自覚的ならびに他覚的口腔乾燥症状がある
  - ・ 唾液分泌量の減少あるいは唾液腺機能低下がない

注1 \*上記のシェーグレン症候群、蒸発性口腔乾燥症を除く各分類では  
① 自覚的ならびに他覚的口腔乾燥症状がある ② 唾液分泌量の減少あるいは唾液腺機能低下がある  
の両方の条件を共に満たすことが必要で、「唾液分泌量の減少」とは、ガムテストにて10分間で10ml以下、Saxonテストにて2分間で2g以下、安静時唾液量にて15分間で1.5ml以下の少なくともいずれかに該当するもの。また、「唾液腺機能低下」は唾液腺シンチグラフィにて機能低下を認めるものと規定されている。

注2 自覚的口腔乾燥症状はあるが、他覚的口腔乾燥症状と唾液分泌量の減少がない場合は「心因性的場合」として歯科心身症と診断し、上記分類の口腔乾燥症には含まれていない。

日本口腔内科学会雑誌(旧:日本口腔粘膜学会雑誌)2008年 14巻2号87-88頁より要約